

令和5年度 第2回全国健康保険協会佐賀支部評議会議事録

◎日時 令和5年10月25日(水) 10時00分～11時30分

◎場所 全国健康保険協会佐賀支部7階会議室

◎出席者 学識経験者(燕竹評議員、中島評議員、平部評議員)

事業主代表(西岡評議員、福山評議員)

被保険者代表(高祖評議員、田中評議員、松尾評議員) 50音順

オブザーバー 佐賀県健康福祉政策課

◎議題

1. 令和6年度保険料率について
2. 令和6年度支部事業計画及び支部保険者機能強化予算の策定に向けた意見聴取(意見交換)

◎主な意見等

1. 令和6年度保険料率について

資料1-1、1-2に基づき、事務局から説明。

主なご意見等は以下のとおり。

【事業主代表】

今後5年、10年先に財政が厳しくなることから平均保険料率10%を維持するべきとの意見もあるが、準備金がこれだけ積み上がっている状況では、保険料率を少しでも引き下げて様子を見ても良いのではないかと。事業主の立場としては、社会保険料や税金の固定費、賃上げに伴う人件費の増大等で負担が重くなっている。準備金残高に余裕があるのならば、引き下げていただきたいというのが本音である。

【学識経験者】

今までは平均保険料率10%維持を前提に議論が進められている印象を持っていた。平均保険料率を維持しても、10年後には準備金がマイナスになる点のみに注目するのではなく、準備金が積み上がっている事実をもっと見ていただきたい。4兆円を超える準備金がある中で、一部でも事業主・加入者に還元することを検討してもらいたい。協会けんぽの財政について中長期的に考えるという視点を理解できる部分はあるものの、短期的に平均保険料率を0.1%でも引き下げて財政状況がどうなるのか、引き下げた結果どう影響があったのか、検証しても良いのではないかと。平均保険料率10%維持でなければならないという考えから脱却すべきである。企業は最低賃金の引上げやエネルギー・穀物価格等の高騰により経営は

逼迫している。特に中小企業が多い佐賀支部として訴えていく必要があると考える。

【被保険者代表】

先日、連合の会議に出席したが、その中で保険料率が一番高い佐賀支部と一番低い新潟支部の保険料率の較差を是正しなければならないという意見が多数挙がったことを報告しておく。

【学識経験者】

企業経営を取り巻く環境は厳しくなっており、どのように保険料率を引き下げていくかは重要な視点である。一方で、今回のシミュレーションを見ると、来年度保険料率を少し引き下げた場合でも、結果にあまり大きな差はないのではないかと感じている。今回新たな前提を置いた、賃金上昇率2.0%、医療費給付費の伸び率3.1%の追加試算が示されたが、折れ線グラフがなだらかなカーブになっていることから、健康保険制度を持続していくには、いかに医療費の伸び率を抑制していくのが重要かということが示されたとも言える。医療費の伸びを抑制するには、保険診療そのものの在り方について抜本的な見直しが必要な時期に来ており、保険で見る部分、自費でお願いする部分の棲み分け等を検討していく必要がある。今までどおり、全て保険診療で賄うのは限界がきているのではないか。また、医療費の抑制に寄与する個人への一定のインセンティブがあっても良いのではないかと考える。メリハリのある給付と負担の在り方という大きな枠組みの中で制度設計をしていくべきで、結果として医療費を使う側と保険料を負担する側の公平性やバランスがとれていくのではないのだろうか。保険料率のあるべき水準について考えるという視点も大事であるが、今後はいかに医療費の伸びを抑えていくか、そのために保険者としてどのような事業に取り組んでいくのかという視点を持つことが重要になってくる。

【事業主代表】

試算の前提となる医療給付費の伸び率3.1%について、直近の3年間はコロナの影響でかなり上下があったと思うが、それ以前の伸び率はどうであったのか。

【事務局】

コロナ渦前の4年で見ると医療給付費の伸び率は2.0%であり、前年度はその数字を置いてシミュレーションを行っていた。今年度はコロナ渦を含む直近4年の伸び率を平均した3.1%を置いてシミュレーションを行っている。

【事業主代表】

賃金上昇率が高くなると医療給付費の伸び率も高くなるという関係性についてはしっか

りエビデンスを示していただきたい。医療給付費の伸び率を抑えたい一方で、賃金上昇率を上げることが出来れば保険料収入が増え、収支が改善することになる。その際は平均保険料率について引き下げを積極的に考えていただきたい。

【学識経験者】

今まで佐賀支部では、単年度収支の原則に基づいた財政運営をすべきであるという主張に拘ってきた。しかしながら、協会けんぽの財政については、中長期的に考えるという基本スタンスの結果、準備金がどんどん積み上がっている現状である。今回説明いただいたシミュレーション結果については理解したが、準備金をどこまで積み上げれば良いのか、準備金の適正な水準を設定する必要があるのではないかと感じている。併せて、積み上がった準備金をどのように還元していくのか、具体的に示していただきたい。財政を中長期的に見ていくことも大事だとは思いますが、現在、将来のために高い保険料を負担している事業主・加入者に還元していくことも重要であり、そのための制度設計に着手していただきたい。

【事務局】

準備金の活用に対しては、全国からご意見を頂戴している。直接、事業主・加入者に還元することは法律上できないため、生活習慣病予防健診等の自己負担の軽減や様々な保健事業を充実させることで間接的に還元しているところである。また、協会けんぽの財政の赤字構造は解消されておらず、今後の財政状況に関するシミュレーションを見ても、可能な限り長期にわたり平均保険料率 10%を超えることのないよう、準備金を保有する必要性は高いと考えており、適正な準備金の水準については一概に言えるものではないと考えている。

・令和6年度保険料率の変更時期について

→令和6年4月納付分(3月分)から変更することについて、主な意見は特になし。

2. 令和6年度支部事業計画及び支部保険者機能強化予算の策定に向けた意見聴取（意見交換）

資料2に基づき、事務局から説明。

主なご意見等は以下のとおり。

【学識経験者】

深掘分析から見えた佐賀支部の健康課題等の解決に向けた事業実施案ということで2つお示しいただいたが、事業実施については賛成である。今後、来年度の支部事業計画に落とし込んでいくことになると思うが、数値目標についてはどういったものを想定しているのか。

【事務局】

具体的な事業内容については今後本部と詰めていくことになるが、その過程で可能であれば数値目標を設定し、効果検証を行う必要があると考えている。効果検証が出来なければ事業の横展開も難しいと思うので、どういった部分で数値目標の設定ができ、どういった内容で効果があったのか、しっかり効果検証を行っていきたい。場合によっては1年で効果は出ないことも想定されるため、ある程度長いスパンで見えていく必要があるのではないかと考えている。

【学識経験者】

正直、短期間では効果が見えないのではないかと考えている。例えば3年間努力されても医療費にインパクトを与えるような結果が出ることは簡単ではない。事業評価に関しては、もう少し評価期間を長くする等、長期的な戦略で事業を実施していただければと思う。

【学識経験者】

喫煙者の割合が佐賀支部では2022年に30%を超えている。喫煙者をターゲットに事業を実施するとのことだが、そもそも何故佐賀の喫煙率が高いのか、地域によって特徴はあるのか、といったことを分析のうえ、長期的なスパンで改善・ケアしていくのが良いのではないかと考える。佐賀の喫煙率が高い根本原因を把握したうえで事業に取り組むことで、より実効性が高まるのではないかと。

【事務局】

健康課題を深堀分析した結果、総合工事業に従事されている男性の喫煙率が高いということが分かった。そこをターゲット層に情報提供等を丁寧に行っていくことで、なんとか喫煙率を下げられないか、内容を工夫しながら行っていきたい。

【学識経験者】

医療福祉業に携わる女性の代謝リスク保有率が高いのはどのような理由かお聞きしたい。例えば、不規則な勤務時間の影響で食事の時間がバラバラなどといったことが影響しているのか。

【事務局】

高い理由は把握できていないが、不規則なことにより、多くのストレスを抱えていらっしゃる方も多く、そういった影響もあるのではないかと考えている。

【事業主代表】

運動をすると血糖値の数値が下がるといった指導を自分は受けたことがある。改善方法などを含めて、丁寧に情報提供を行っていただければと思う。

(以上)